

3. 結婚後の家計管理方法の世代間比較——「支出分担タイプ」などの増加

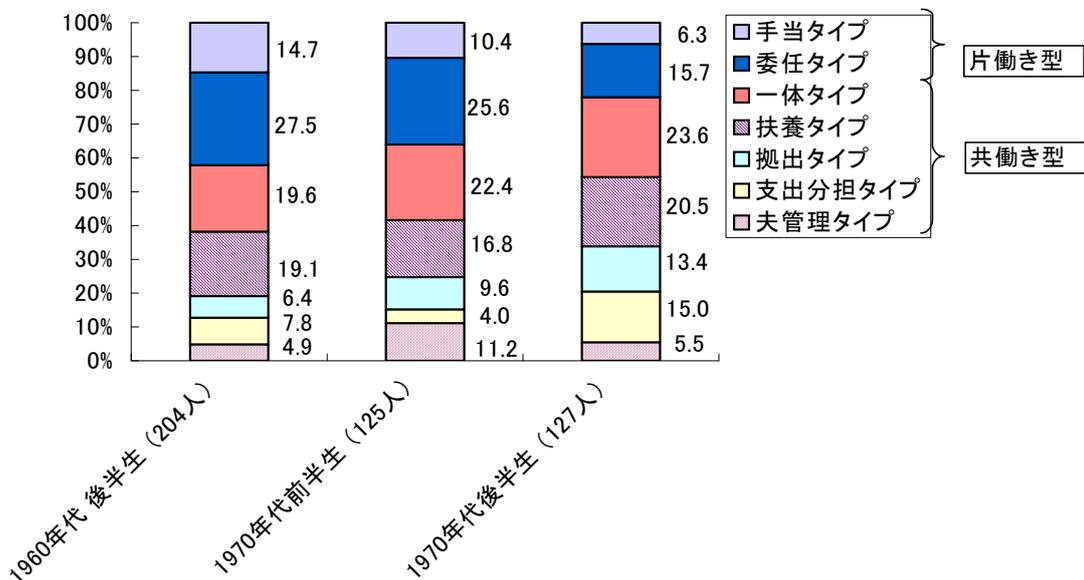
結婚しても、自分の財布はしっかりキープ

次に、実際に結婚した人が、結婚 1 年目にどのような家計管理方法を行っているかを調べた。具体的には、20 歳代後半の女性にしぼり、対象者の世代ごとに回答がどう変化しているかを検討した（1960 年代後半生まれ¹、1970 年代前半生まれ²、1970 年代後半生まれ³）。

全体として、後の世代になるほど、「手当タイプ」（夫が収入の一部を妻に渡し、それ以外は夫の財布に入る）、「委任タイプ」（夫が収入の全てを妻に渡し、妻が家計を管理する）などの片働き型を選ぶ割合が減少し、それと並行して、共働き型の諸タイプが増加している。

特に注目されるのは、最も若い 1970 年代後半生まれの世代で、「支出分担タイプ」や「拠出タイプ」の割合がそれまでの世代に比べて高くなっていることである（それぞれ 15.0%、13.4%）。この二つのタイプはどちらも、結婚後も二人とも仕事を続け、収入の一部を拠出、ないしは共同生活に必要な経費のみを出すだけで、それぞれが自らのお金を管理するという方法である。結婚したからといって二人で共同の家計にすぐ移行するわけではなく、これらのタイプのように、家計の共有部分が小さいまま、二人が別々の「個計」を保持するケースも増えつつあることがわかる。

図表 3-1 結婚 1 年目の家計管理方法（世代間の比較）



¹ 1964～1969 年生まれ

² 1970～1973 年生まれ

³ 1974～1979 年生まれ